

# 「QAA 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月」 (邦文仮訳)

QAA, *Subject Benchmark Statement, Art and Design, February 2017*  
(Japanese Provisional Translation)

山口豪\*<sup>1</sup>

Go YAMAGUCHI\*<sup>1</sup>

あらまし：本稿は、英国におけるアート&デザイン分野の質保証の枠組みの理解に資するよう、QAA（The Quality Assurance Agency for Higher Education（高等教育質保証機構））による *Subject Benchmark Statement, Art and Design, February 2017*（分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月）を邦文に仮訳したものである。

本稿の構成は、大要、次のようになっている。1で、この分野の質保証をわが国で今後推進する必要性とこの基準の邦文仮訳を行った理由を述べた後、先行研究のレビューを行い、2~3で、この基準の概要と特徴について触れる。そして、4で、この基準全体の邦文仮訳を行った後、5で、日英の学士課程教育の構造上の違いを踏まえ、英国の枠組みをわが国に導入する際に考慮すべき諸問題について考察する。最後に、6で、芸術学およびデザイン学の分野別質保証を今後わが国で推進していく上での残された課題を3点指摘する。  
キーワード：分野別参照基準、アート&デザイン、QAA、分野別質保証、知識・理解・スキル

## 1. はじめに

### 1.1 アート&デザイン分野の質保証を推進する必要性

わが国において、近年、第三者による専門分野別評価を実施する意義が高まっている。例えば、2002年に中央教育審議会は「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について（答申）」の中で、「大学の専門性を様々な分野ごとに評価する、いわゆる専門分野別第三者評価についても、例えば日本技術者教育認定機構（JABEE）が行っているように、将

来的には多様な分野で行われることが必要である。」との指摘を行い、その後、2005年に同審議会は「我が国の高等教育の将来像（答申）」の中で、「事後評価に関しては、社会的要請を踏まえれば、機関別評価と専門職大学院評価のみでなく分野別評価についても積極的に採り入れられることが期待される。その際、分野の特性に応じて学協会等関係団体の参画・協力を得ることが考えられる。」との提言を示している。さらに、2016年に同審議会は「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」の中で、「専門職大学」を制度化するよう求め、その認証評価に関しては、「分野別質保証の観点からの評価を採り入れること、新たな機関のみを設置する場合は機関別評価と分野別評価を一体的に行ったり、新たな機関を併設する場合は、機関別評価は大学全体として行い、新たな機関については分野別評価を中心に行ったりして効率化を図ること等を含め、効果的な評価の導入を図る。」という質保証の仕組みを提唱した。

近年、こうしたわが国における高等教育の分野別質保証に向けた取組みの一層の推進が求められている中で、わが国においては、工学、薬学、歯学、医学、看護学、獣医学などの専門分野別評価が進んでいる。また、日本学術会議では、すでに数多くの学問分野で大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準がQAAによる分野別参照基準などを参考にして策定・公表されている（注1）。

上記のような動きの中で、芸術学およびデザイン学の分野別質保証に関するわが国の取組みは、日本学術会議が対象としていない学問分野であることなどから、他の学問分野と比較して遅れているといっても過言ではない。このような状況に鑑み、今後わが国で、芸術学およびデザイン学の分野別質

\*<sup>1</sup> デジタルハリウッド大学 学務グループ  
Undergraduate Academic Affairs, Digital Hollywood University

保証の取組みを推し進めていく必要があると筆者は考える。

## 1.2 邦文仮訳を行う理由

本稿では、その第一歩として、わが国の芸術学およびデザイン学分野の学部・学科等を設置している又はこれから同学部・学科等を設置する高等教育機関の分野別質保証に資するべく、アート&デザイン分野の質保証の枠組み作りが進んでいる英国の分野別参照基準を邦文に仮訳し紹介することとした。この基準を翻訳したのは、今後わが国で上記の分野別質保証のあり方を検討する際に、この基準が一つの極めて重要かつ有益な先進事例になると筆者が考えたからである。

なお、本稿は、可能な限り、適切な内容となるよう努めたが、QAAの確認を経たものではない。また、本稿は、筆者が個人として発表するものであり、所属機関等により公表されるものではなく、翻訳内容に関する有り得べき誤りは、すべて筆者個人の責任に帰属することを予め断っておきたい。

## 1.3 先行研究のレビュー

英国の分野別参照基準の内容をわが国へ紹介した主要な先行研究として、大森(2015)、河合塾(2008)、大学評価・学位授与機構(2015)、日本高等教育評価機構(2007)、日本学術会議(2010)、広島大学高等教育研究開発センター編(2007)、依田(2015)などがあるが、管見の限り、アート&デザイン分野の参照基準に焦点を当てて、その内容をわが国へ紹介した文献は見当たらない。また、英国の分野別参照基準の内容を翻訳したものとして、大森(2015)や同センター編(2007)があるが、アート&デザイン分野の参照基準の翻訳についても、管見の限り、わが国では未だ行われていない。

上記の点により、本稿は、先行研究の中で、新規性を持つものと位置付けることができ、また、今後この分野での新たな研究の推進や展開に資することができるかと筆者は考える。

## 2. 英国の分野別参照基準の概要

ここでは、邦文仮訳に移る前に、英国の分野別参照基準について、①定義、②種類、③具体的内容、④具体的役割、⑤機関評価における活用方法、⑥作成と見直し方法という6点を中心に、QAAのウェブサイトおよび上記の先行研究をもとにして、その概略を述べておきたい(注2)。

## 2.1 定義

分野別参照基準とは、クォリティーコード(Quality Code(質規範))のパートA「学術水準の設定と維持(Setting and maintaining academic standards)」の一部である。分野別参照基準は、専門分野の範囲の中で、学位の基準に対する期待を設定するものである。それらは、何が特定の専門分野に一貫性と同一性を与えるのかを述べるとともに、学位取得者に期待されるものを、専門分野における理解力や問題解決能力を發展させるのに必要とされる能力やスキルとして定義するものである。

## 2.2 種類

分野別参照基準は、2017年4月時点で、学士(優等学位)課程レベル(61分野)、修士課程レベル(16分野)、ヘルスケア専門職(18分野)、スコットランドにおける専門職資格(6分野)の4種類に分類して作成されている。

## 2.3 具体的内容

学士(優等学位)課程レベルの分野別参照基準の具体的内容は、各分野によって多少の違いはあるものの、基本的には、表1にあるような各項目で構成されている。

表1 英国における分野別参照基準の様式  
(学士(優等学位)課程レベル)



出所) 日本学術会議(2010)73頁と依田(2015)249頁を基に筆者作成

こうした分野別参照基準は、科目の学術的特徴、学位・資格を授与されるのに必要な知識、技能および理解などを定義し、各大学がプログラムを設計し、期待する学修アウトカムの枠組みを作る際の参照文書となることが意図されている（依田, 2015, 244 頁）。

## 2.4 具体的役割

分野別参照基準は、専門分野の国家的な教育課程を示すものではなく、むしろ、専門分野のアカデミックなコミュニティによって構築された包括的で概念的な枠組みであり、その中で、プログラムの設計における柔軟性と革新性を許容するものである。

分野別参照基準は、プログラムの設計、実施、レビューに関与する人々の役に立ててもらふことを意図している。また、大学で学ぼうとする人々や、卒業生を雇用しようとする人々が、専門分野の学位の性質や基準について知りたいと思ったときに、役立ててもらふことも意図している。

## 2.5 機関評価における活用方法

英国では、QAA が大学の機関評価を定期的実施している。QAA は分野別評価を実施していないが、分野別参照基準を作成しており、大学はプログラム設計やレビューの際に参考にしていく。QAA による機関評価では、大学の Department (学科) レベルでの定期的なレビューの実施や外部試験委員制度 (external examiners) 等の内部質保証の取組、分野別参照基準をどれだけ参考としているかが評価されている（依田, 2015, 184 頁）。また、その機関評価では、分野別参照基準がコース設計、承認、レビュー等において参考にされているか、大学の定期的プログラムレビューが適切に実施されているか等を評価する（依田, 2015, 187 頁）。

このように、英国では、Department レベルでの定期的なレビューが実施され、その取組が QAA による機関評価で評価される構造になっている。内部レビューでは分野別参照基準が各分野の学位基準を示すものとして使われており、QAA の評価においても、その利用の確認、あるいは利用しないことと理由を問う形になっている。また、古くより学外試験委員制度があり、他機関の教員あるいは関連分野の専門家が、教育課程の実施状況について公平な助言を行う（大学評価・

学位授与機構, 2015, 9 頁）。

英国では、こうした分野別参照基準などのインフラが整備されていることとともに、学外試験委員制度が存在することが、分野別の質保証が機能する基盤になっている（大学評価・学位授与機構, 2015, 6 頁）。英国の大学は、この分野別参照基準に従う義務はないが、その場合は QAA による機関評価の際にその理由を説明する必要がある。英国の大学がこの分野別参照基準に従うかどうかは信頼の上に成立している（日本高等教育評価機構, 2007, 110 頁）。英国では、分野別参照基準が、QAA によって開発・提示され、法的拘束力はないものの、事実上の規制力を持った規範（ソフト・ロー）として機能してきたといえる（大森, 2015, 168 頁）。

## 2.6 作成と見直し方法

QAA は、高等教育セクターと緊密に連携しながら、様々な専門分野についての分野別参照基準を公表している。なかには、対象分野の外部専門家や監督機関が要求する専門的水準との組み合わせによるものや、その参照のもとで作成したのものもある。

新たに作成される分野別参照基準については、承認スキームを設けている。そのスキームでは、各基準の内容が十分なものか、あるいは、独自性が確保されているか、さらには、新規の分野別参照基準が当該分野のコミュニティの意見を代表したものとして策定されているかを確認することとしている。

QAA は、最初に分野別参照基準を公表してから 5 年以内に見直しを行うこととし、その見直しを行った基準については、7 年以内に再度見直しを行うこととしている。

最後に述べたこの点は極めて重要であると筆者は考える。学問分野は常に変化していることから、分野別参照基準の妥当性、独自性、信頼性を担保するために、恒常的かつ継続的に分野別参照基準を見直す作業を行うことは不可欠である。

## 3. 英国の分野別参照基準の特徴

上記で述べた概要を踏まえ、ここでは、英国の分野別参照基準について、筆者が考える主要な 3 つの特徴を以下で指摘しておきたい。

第一に、英国では、この基準において、各専門分野の学位

取得者に期待される知識、理解、スキルと、各専門分野の閾値・典型・卓越基準という3つのベンチマーク基準とを書き分けているという点である。この点に関しては、英国では、学士課程において、「成績優秀者かどうか」、「どの等級で学位を得たか」などが重視され、優等学位には、成績によって、First Class、Upper Second、Lower Second、Third Classの4段階のレベル分けがなされていることから、その指標が必要になるためと考えられる。このように、水準判別的な意味合いを持つベンチマーク基準を各専門分野で設定している点は、英国における大きな特徴とあってよいだろう。

第二に、この基準は、各大学がプログラム設計を行う自主性・自律性を最大限に尊重し、各専門分野の国家的なカリキュラムのあり方を示す規制的な手法ではなく、プログラム設計における柔軟性や革新性を許容したゆるやかな手法によって、各大学の学位の分野別質保証を促進することを意図したものとなっている点である。この点は、各大学の分野別質保証を担う第一義的責任は大学自身にあり、その質保証はまずもって自分たち大学人の手で自ら行うという意識が強い英国の伝統を反映していると考えられることから、英国において押さえておくべき重要な特徴とあってよいだろう。

第三に、QAAによる機関評価において、各大学は分野別参照基準に従う義務はなく、それに従うかどうかは信頼の上に成立しており、法的拘束力はないもののソフト・ローとして、この基準が機能しているという点である。この点は、英国の各大学において、その構成員が主体的に分野別質保証に携わる「質の文化 (Quality Culture)」が醸成されている証左であると見受けられることから、英国における主要な特徴とあってよいと考える。

以上に述べた3点の特徴を持つことから、英国の取組みは、わが国の高等教育における分野別質保証を今後進めていく上で、一つの重要かつ有益な先進事例になると筆者は考える。

それでは、以下4において、2017年2月に公表されたQAAによるアート&デザインの分野別参照基準を原文に基づき「表紙、目次、本文、奥付」という区分から邦文仮訳を行うこととする。なお、原文は、QAAによるウェブサイト：<http://www.qaa.ac.uk/publications/information-and-guidance/publication?PubID=3145#.WSNGSuuLSUk> (参照日 2017/4/23) から入手した。

## 4. 「QAA 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月」 (邦文仮訳)

「表紙」

QAA

分野別参照基準

アート&デザイン

2017年2月

英国高等教育のための質規範  
パートA：学術水準の設定と維持

「目次」

この文書をどのように使用できるか？

分野別参照基準について

この分野別参照基準について

- 1 導入部
- 2 原則の定義
- 3 アート&デザインの性質と範囲
- 4 知識、理解、スキル
- 5 教授、学習、アセスメント
- 6 参照基準

付録1：プログラムタイトルのリスト

付録2：アート&デザインの分野別参照基準のベンチマーキングおよびレビューグループのメンバー

「本文」

この文書をどのように使用できるか？

この文書は、アート&デザインの分野別参照基準である。この参照基準は、この分野の卒業生に期待されることを、その卒業生が学習終了時に、何を知り、何ができ、何を理解した

のか、という観点から定義したものである。

もし、あなたが、下記に該当する場合は、この文書を読んでもらいたい :

- アート&デザインまたはそれに関連する専門分野のプログラムの設計、提供、レビューに関与する場合
- アート&デザインを将来学ぶことを考えている学生、あるいは、それを現在学んでいる学生（この分野に何が含まれているのかを知るために）
- 雇用者（アート&デザイン分野の卒業生にとって一般的に期待される知識やスキルを知るために）

この分野別参照基準で使用されている専門用語の説明は、QAA の用語集で見つけることができる（注3）。

## 分野別参照基準について

分野別参照基準は、QAA によってレビューされた高等教育のすべての提供者が満たす必要のある期待内容を示した英国高等教育のための質規範（クォリティーコード）の一部を構成している（注4）。その基準は、「パート A : 学術水準の設定と維持」の一部であり、高等教育の提供者が、最低限の学術水準を保証するために、関連する分野別参照基準を参考にすることや考慮に入れることを期待した内容を含んでいる（注5）。

分野別参照基準は、特定の専門分野や特定の資格に関して、当該分野の学位取得者や資格取得者の期待される学習および学術水準の本質を詳述したものである。その基準は、特定分野の学位取得者が学習プログラムの終了時に、何を知り、何ができ、何を理解するようになるかと期待されるかという点についての合理的な概念を規定したものである。

分野別参照基準は、学術プログラムの設計、提供、レビューの参照指標として使用される。その基準は、当該プログラムに関連する学習成果を明確にするための一般的な指針を提供するものである。しかし、その基準は、当該専門分野の国

家的な教育課程を示すことを意図したものではないし、また、教授、学習、アセスメントの方法を規定することを意図したものでもない。その代わりに、その基準は、専門分野のコミュニティによって合意された枠組みの中で、プログラム設計における柔軟性や革新性を許容するものとなっている。プログラムの設計、開発、承認、学習と教授、学生の評価、およびプログラムのモニタリングとレビューに関する詳細な指針は、以下の章にあるクォリティーコードの「パート B : 教育の質の保証と向上」で入手できる（注6）。

*B1 章 : プログラムの設計、開発、承認*

*B3 章 : 学習、教授*

*B6 章 : 学習成果のアセスメントおよび既修得者の認定*

*B8 章 : プログラムのモニタリングおよびレビュー*

いくつかの専門分野では、高等教育の提供者は、プログラムの設計、提供、およびレビューに際して、分野別参照基準に加えて、その他の参照指標を考慮する必要がある場合がある。これには、専門家、法定機関、規制当局、国内の労働基準、業界または雇用者の期待によって定められた要件が含まれる。そのような場合、分野別参照基準は、これらの要件でカバーされていない学術水準に関する追加の指針を提供する（注7）。学術的要件と専門的要件または規制要件との関係は、個々の参照基準の中で明確になっているが、この情報をどのように使用するかは個々の高等教育の提供者がその責任を負う。学術水準を維持する責任は、学位を授与する高等教育の提供者にある。

分野別参照基準は、専門分野のコミュニティを代表したものであるとしての役割を果たし、そのコミュニティの中から集められた専門分野のスペシャリストによって作成され、維持管理されている。そのプロセスは QAA によって促進されている。分野別参照基準の継続的な通用性を保証するために、QAA は最初の出版から5年後に、そしてその後7年ごとに、その基準の内容の定期的なレビューを実施する。

## 法律との関係

高等教育の提供者は、法令要件や資金提供機関などによって定められたその他の規制要件を満たす責任がある。クォリティーコードは、法律を解釈するものでも、法令要件や規制要件を包含するものでもない。その他の要件に関する情報源やグッドプラクティスおよび指針の例は、必要に応じて、分野別参照基準の中に記されている。高等教育の提供者は、これらのリソースをどのように使用するかについての責任を負っている（注8）。

## 平等性と多様性

クォリティーコードには、全体を通じて、平等性と多様性に関する事項への配慮が組み込まれている。平等性を促進することとは、多様な要求、資格、背景を持つ人々のための願望を高め、その人々のための目標達成を支援しながら、すべての人々を同等の尊厳と価値をもって扱うことである。学習の包括的な環境は、学習者の多様な要求を予期し、すべての学生が教育機会に平等にアクセスできるように保証することを目的としている。高等教育の提供者、職員、学生はすべて、平等性を促進する責任を担っている。

機会の均等性には、学習に対する恣意的かつ不必要な障害を取り除くことだけでなく、個々に異なる要求を持つ人々のためのアクセスを可能にすることが含まれる。これに加えて、障がいを持つ学生も障がいを持たない学生も、可能な限り包括的な設計を行うことによって、また、必要に応じて合理的な個別調整を行うことによって、平等にアクセスできる学習機会が提供される。

## この分野別参照基準について

この分野別参照基準は、アート&デザインの学士号について言及する（注9）。

この分野別参照基準のバージョンは、2002年に分野別参照基準を最初に公表し、その後、2007年にその基準を見直した改訂版を公表したのに続いて、第3版である（注10）。

## 高等教育セクターのコーディングシステムの配列についての注意点

この分野別参照基準を参照指標として使用する教育プログラムは、一般的に JACS（Joint Academic Coding System（共同学術コーディングシステム））（注11）の以下のコードに基づき分類される。

- W100（美術）
- W110（製図）
- W120（絵画）
- W130（彫刻）
- W140（製版）
- W150（書道）
- W160（美術保護）
- W190（他に分類されない美術）
- W200（デザイン研究）
- W210（グラフィックデザイン）
- W211（タイポグラフィー）
- W220（イラストレーション）
- W230（衣類／ファッションデザイン）
- W231（織物デザイン）
- W240（産業／製品デザイン）
- W250（インテリアデザイン）
- W260（家具デザイン）
- W270（陶芸デザイン）
- W280（インタラクティブ&エレクトロニックデザイン）
- W290（他に分類されないデザイン研究）
- W600（映画制作技術および写真）
- W640（写真）
- W700（工芸）

## 以前の分野別参照基準（2008年）からの変更点の概要

以前の参照基準が公表されてから、アート&デザイン分野の参照基準はそれほど大きな変更を行っていない。

2008年版のアート&デザイン分野の参照基準との最も明確

な違いは、もはや以前の「アート、建築、デザインの歴史 (History of Art, Architecture and Design)」と同じ分類の下にはないということである。ただし、このような変更を行ったものの、依然としてその2つの分野別参照基準との間には強い固有の関係性がある。

この分野別参照基準は、アート&デザインの優等学位の授与が、現在の変化する技術的および商業的情勢を反映するように更新されている。また、そのレビューグループは、そのような学位取得者のスキルや態度の内容を示すために、この基準のセクションにおいて、到達度の卓越レベルを追加することも決定した。

## 1 イントロダクション

1.1 この分野別参照基準は、アート&デザイン分野の高等教育の豊富性と多様性を反映しており、この分野の英国の卒業生がグローバルなレベルでの文化、社会、経済を創出するという実質的な貢献度を評価するものである。

1.2 学術的かつ知的な探求としてのアート&デザインの学習は、人間の経験の審美的、倫理的、社会的状況に関連する一連の認知能力を養成するものである。したがって、アート&デザインの学習に関わるということは、自分自身や他の人々の経験の質を向上させることに関与することであり、この分野別参照基準は、持続可能な社会実現に向けた責任と、学生に対して、現在および将来において、社会、経済、環境に貢献する分野で働く力を身につけさせる責任とを認識したものである。

1.3 この分野別参照基準の明確化のために、アート&デザインは「科目」と呼ばれ、その科目内の別個の活動領域は「専門分野」と呼ばれる。これらの専門分野は、絶えず進化し相互に影響し合う状態にあり、幅広い範囲の条件に対応するベンチマーク基準を必要としている。その科目が対象とするプログラムの多様性と学際的な性質を反映して、レビューグループは、アート&デザインの優等学位号に関する公表時点での典型的なタイトルを示した付録を追加した (付録 1)。

1.4 この分野別参照基準には、アート&デザインの優等学位を取得した学生が必要とする達成度の閾値 (最小) レベルと典型的なレベルを記述するだけでなく、卓越した達成基準の簡潔な説明も含まれている (セクション 6 を参照)。

1.5 その目的は、高等教育の提供者に対して、科目の特定の側面に多かれ少なかれ重点を置く柔軟性を与える分野別参照基準を提示することにある。この基準は、意図的に、その専門分野の各分野レベルでのプログラム内での解釈を可能にするように提示されている。このようにして、高等教育の提供者に対して、プログラムの設計、内容、学習成果に関して更新し創造することを容認している。

1.6 アート&デザインのプログラムは想像力と創造力を重視し、学生の知的能力と、プロセスや思考における厳密さを伝える能力を養うように設計されている。学生の経験には、科目別と汎用的な知識・理解および態度・スキルの両方が含まれる (セクション 5 を参照)。アート&デザインを学ぶことは、探求的、分析的、創造的なアプローチの発展を促進し、起業家的な能力を高める。それはまた、独立した判断力と批判的な自己認識力の修得を促進する。基本原則と適切な知識およびスキルの理解を修得し始めると、通常、学生はより一層独立した学習に進む段階の養成プログラムに進む。

1.7 高等教育への参加レベルの増加と、高等教育における教授法や学習成果の発展の両者に対応して、学習と学習環境の形態に関する新しいアプローチが開発されている。ほとんどの学生は、幅広い範囲の技術的なワークショップやその他の専門施設でサポートされている環境で学ぶ。独立的かつ能動的なピアグループ学習は、学生の経験の重要な要素であると考えられている。これらの開発は、オルタナティブな相乗効果や実践様式を作り出す新しい技術と専門分野の性質の変化によってもたらされた。

1.8 アート&デザインのスキル、特に「製作」のスキルは、学習者にかかわる認知発達に寄与する。すなわち、素材、プロセス、アイデアとの関わりを通して、その「制作」は、創造性、創作力、問題解決力、実践的な知性を発達させる。

1.9 アート&デザイン分野における高等教育の発展は、視覚的および物理的な内容に対する需要の増加、技術の急速な発展、ビジュアルアートやメディアへの公益的関心の高まり、そして、創造性や革新性がいかに産業、サービス、第3セクター、クリエイティブおよび文化産業にもたらされるかという関心の高まりを反映している。アート&デザイン分野の卒業生は、並外れた臨機応変さ、起業家的スキル、そして、新しく革新的な企業を設立する能力を一貫して示している。その多くは、デザイナー、アーティスト、クリエイターとして直接活動しているが、その他は、彼らの知識やスキルが、より一層、広く認知され、必要とされ、そして、幅広い適用力として評価される多様な分野で働いている。

## 2 原則の定義

2.1 アート&デザインは、複雑かつ多様に進化し続ける専門分野を包括するために広く使われている用語である。そして、それは、概念的に重要な特徴を共有しているが、同時に大きな違いもある。その違いの本質は、学習と実践の分野としての豊富さに起因しているが、専門分野の範囲はまた多くの性質の定義を共有している。技術の使用、素材の探究、既存の専門分野への挑戦は、複数の学際的な活動の増加をもたらしている。

2.2 アート&デザインの学習は、以下のものを養成する：

- 創造的な能力
- 美的感性
- 知識の探求
- チーム作業のスキル
- 多様性の理解
- 品質と細部の理解
- さまざまな方法で研究を実行する能力
- 自らの学習と開発を批判的に内省する資質
- 創造的实践に倫理的配慮を組み入れる能力
- 独立して働き、反発力と自己決定を促す能力
- さまざまな形式でコミュニケーションを行う能力

2.3 これらの能力は、さまざまなアート&デザイン分野によって異なり、そのすべては特定の認知的属性の養成を必要とする。創造的なプロセスにおける想像力の役割は、観察し可視化する能力において、また、問題を特定化し解決する能力において、そして、批判的かつ内省的な判断を行う上において、それぞれ不可欠である。

2.4 アート&デザイン分野の高等教育における学習と実践の成果は、個人や社会の文化的発展と経済的福利に寄与する。どちらの場合も、実践の文脈を理解することが不可欠である。前者は、批判的な意識を持ち、現代と歴史の双方の文脈において個人を位置付けることによって、知性を高める。後者は、個人の実践が独創性や個人的な表現を伝達する他者の実践とどのように関連しているかという知識を提供する。そのような知識がなければ、個人は、自分の創造性やそれが設定されている文化的背景の本質についてのいかなる感覚も持つことはできないだろう。学生はまた、幅広い職業、経済、社会、環境の状況や、その学生が利用できる専門的機会の範囲について理解する。これらには、変化を予期し変化に対応すること、ビジネスのプロセスの知識と応用力、コミュニケーション能力（ビジュアル、ライティング、口頭、個人およびデジタル）、仕事の流通と宣伝、起業家精神のスキル、そして、顧客／聴衆との交渉スキルが含まれている。

2.5 それらの専門分野の文脈的設定について学ぶ際に、学生はまた、世界的、歴史的／現代的、文化的／環境的な背景の中で、適切な関連する理論に関与し、その文脈を伝えるとともに、学生自身の活動の目的にその文脈を付け加える。その結果として、学生は、自分の専門分野やその分野の伝統的な表現方法に関する自分自身の重要な素養を磨き高める。

2.6 経験的、活動的、および探求ベースの学習は、アート&デザインの優等学位における特徴である。これらのアプローチを通じて、学生は自律的学習能力と他者との協働能力の両者を養成することが促進される。学生は、設定された問題を創造的な方法で解決する能力を養成されるだけでなく、問題を特定して再定義し、適切な問題を提起し解決する能力も養成される。



2.7 アート&デザイン分野の実践の成果は、ほぼ常に、概念的、理論的、そして、実践的なものを組み合わせたものである。学習時の認知的属性の養成とともに、学生は実践的スキルの適用を必要とする成果を生み出す。これらのスキルの中には、特定の状況にのみ適しているものもあれば、専門的な文脈の中で、汎用的または転換可能なものもある。

2.8 アーティストとデザイナーの両者は、聴衆、ユーザー、あるいはプロフェッショナルなニーズに配慮した作品を制作する。これらの設定におけるコミュニケーションの主要な形態には、養成された視覚技能を伴った美的感覚、アイデア、および機能が含まれる。学生は、同僚、教師、専門家、実務家と、正式にも非公式にも交流することで、口頭や書面によるコミュニケーションスキルを身につけることができる。学生は、その学生の知識や理解を明確にし、かつそれらを総合的に扱うために様々な書式を使用する。

### 3 アート&デザイン分野の性質と範囲

3.1 アート&デザインは、多くの分野の重なり合った変化するコミュニティーを包括する科目である。それはまた、メディアやコミュニケーション、舞台芸術、人工的または自然環境、情報技術やコンピューティング、エンジニアリング、ビジネス、芸術・建築・デザインの歴史を含む多くのその他の科目と関わるものである。専門分野の体系や内容は、これらを反映するように変更されることがある。アートとデザインの境界はますます不鮮明になってきており、その科目の中の多くの分野は、一つの分野に焦点が当てられるものではない一般かつ学際的なものになっている。そうした分野の学際性と横断性は、学生に対して、しばしば、進化する創造的なコミュニティーにおける変化の必要性を強調したキャリアポートフォリオの作成準備をさせることになる。

3.2 メディアとプロセスの違いに基づくことが多い伝統的な境界の侵食は、分野間でますます共通となるメディアやテクノロジーの重要な影響によって促進され、伝統的な専門分野に特化したスキルをより汎用的な性質のスキルに置き換えている。アート&デザイン分野は、これらの出現したテク

ロジーの多くの創造的な潜在力に対して、様々な度合で反応し、同化し、操作し、挑戦し、適応しなければならない。そして、そのことは、新しい専門分野の出現—さらなる技術革新と並行して継続すると予想されるプロセス—を促進する。

3.3 アート&デザインの幅広い分野で共有される共通の特性の中には、我々の視覚的かつ物質的な文化を構成する成果物に関する構想、制作、プロモーション、普及がある。最近では、知的で審美的観照を意図した人工物から、機能的な製品、システム、およびサービスにまで範囲が及んでいる。発想から普及までのプロセスとしては、主にビジュアル言語の範囲のものを使用して、概念やアイデアを2次元や3次元で明確に表現することが重要であるが、一部の分野では、時間次元、物語、サウンド、双方向性等も重要である。これらは、創造的なスキル、想像力、ビジョン、革新性を組み合わせたものとなっている。

3.4 アーティストやデザイナーの教育において、その教育に関わる専門分野では、視覚リテラシーの発達を重視している。描画能力では、観察、記録、分析、推測、開発、視覚化、評価、コミュニケーションを必要なスキルとみなされている。専門分野特有の素材やプロセスの使用における技術的スキルの修得には、相当な重要性が伴う。大多数の学生は、より専門的な学部の学習よりも前に、アート&デザインの学習を進める。いくつかの分野では、アート&デザインの側面について幅広い知識と理解が必要であるが、従来の素材やプロセスの作画や取り扱いに関しては、それほど実践を必要としない。その他のいくつかの関連する専門分野も、その文脈において視覚的リテラシーを発達させることを目的としている。それらには、アートの保全と復旧、美術館やギャラリーの経営や管理、情報収集・整理・公開、デザインマネジメント、出版が含まれる。

3.5 ほとんどのプログラムは、学生が知識を修得し、専門分野の文化的背景を理解することを重視している。プログラムは、学生が自分の専門分野の歴史的、理論的、社会的、政治的、経済的、環境的側面に従うように、そして、学生の学習において、そのような側面を総合化または明確化させるた

めに、さまざまな方法を採用している。いくつかのプログラムでは、これらの側面は個別のモジュールを通じて教えられ、その他のプログラムでは、それらの側面は、スタジオ内での実践に完全に統合されている。主に自己啓発と専門的実践に不可欠ないくつかの汎用的スキルは、プログラムのこの部分を通して主に教えられる。研究、批判的分析、および書面／口頭コミュニケーションにおけるスキルに特に重点が置かれている。

3.6 多くのアート&デザインのプログラムは、例えば、持続可能性、ビジネス、マーケティング、社会的・健康的な問題、およびその他の専門的な状況把握のテーマなどの問題を参照することによって、教育内容を広げてきた。アート&デザインの中の大部分の分野は、クリエイティブ産業に多大な貢献をもたらしていると認識されており、これによりアート&デザインの豊かな創造と文化を向上させる功績が国家的に認識されている。ますます、アート&デザイン分野の卒業生は、その専門分野と関係のない分野で就職しているが、ここでは、彼らの水平思考や創造的なスキルを重視し、それらを積極的に求めている。

3.7 アート&デザインのコミュニティーは、科目を構成する分野間の共通点を認めている。これには、現在の批判的な議論に基づき情報化され位置づけられた実践や、好奇心・想像力・共感への共通の信頼、そして、アイデア・素材・方法・プロセスの取り扱いに対する創造的かつ思索的なアプローチのような特徴を含んでいる。

3.8 アート&デザインの実践は、その性質と目的を思索し、それに挑む創造的な試みであるとともに、自己意欲、知的好奇心、思惟的探求、想像力、発散的思考スキルに関する高い水準を必要とする創造的な試みでもある。学生は、素材やメディアとプロセスの間、アイデアと課題の間、そして、プロデューサーや仲介者と聴衆の間の相互関係を認識することを学ぶ。同様に、アート&デザインの実践は、個人の実践を適切な文脈の枠組みの中に位置づける能力を必要とする。

3.9 アーティストやデザイナーは、2次元、3次元といった

次元ベースのメディアや、素材、プロセスの幅広い領域を通して、実用的かつ理論的な問題にも取り組んでいる。これは、クリエイティブな論理的思考の活動であり、また、現在の批判的な議論の認識や情報に基づいたアイデアや方法の適応性に左右される。これは、例えば、様式的にみて突き動かされるか、あるいは、社会的にみて動機付けされ得るかまたは媒介され得るかといった表現力と機能性の間の範囲に及ぶ。それは、また、評価し改良するという反復プロセスでもある。アートとデザインのいくつかの領域は、実践者（個人的に仕事を行う、または積極的に共同制作者／仲介業者としてチーム内で仕事を行う）と顧客、製造業者、聴衆、使用者、消費者、参加者または受取人との間で展開される対話や交渉に依っている。

3.10 アートとデザイン教育の増大する多様化は、卒業生が創造的で文化的な産業での雇用や、研究、教育、マネジメントなどの分野での職業を追求する幅広く多様なキャリアにも同様に反映されている。卒業生は、自らの実践を継続し、彼らの仕事、委託手数料、助成、居住、および／またはその他の雇用に関する販売を通じてそれを支えする。幾人かの卒業生は、例えば、コミュニティワーク、情報収集・整理・公開、管理運営を通して、あるいは、広告、映画、ビデオ制作、ソフトウェアデザインを含んだその他のクリエイティブ産業内において、または、自営業のアーティストやデザイナー／メーカーとして、彼らの学習の適応性を見出す。

3.11 アート&デザインには、分析と合成の両方が含まれており、プロトタイプや、モデルあるいはプロポーザルとしてのデザインの成果の創出に達するといったようなソリューションに焦点が当てられることが多い。科目に対する単一の定義または方法論的アプローチはなく、そして、学際的な関係性の観点からの制限もない。アート&デザインは、人工物やシステムの審美的、倫理的、機能的、商業的特質にかかわる意思決定の見方を取り扱っている。

## 4 知識、理解、スキル

4.1 アート&デザインの学部教育の主な目的は、適切な知

識と理解の修得や、必要な個人的特質の発達、そして、学生が継続的な自己啓発と職業上の実務を身につけるスキルの適用を促進することにある。アート&デザイン分野の優等学位は、また、その学位を持つ者が、概念的な知識や理解とともに、関連する技術的知識や実践的スキルを修得したことを裏付けるものである。

4.2 以下の学習成果での重点の置き方は、主な学問専門分野および特定のプログラムの目的によって異なり、個々の達成度は学位授与の分類に反映されている。これらの学習成果は、学生が選択した専門分野の学習と実践にとって基本的なものとみなされる。その多くは、他の文脈にも移行可能である。

4.3 アート&デザインの教育に内在する知識、理解、スキルは、通常、現代的な文脈に関連しており、セクション 5 に記載されている技術、コミュニケーション、起業家的スキルに関する現在の技術的動向を一般的に考慮に入れている。

4.4 アートとデザインの優等学位を取得した学生は、次のことができる。

- 健全で倫理的な業務慣行および科目に関連する専門的／法的責任を遵守しつつ、スキルと想像力を伴って学んだ専門分野に関連する素材、メディア、技法、方法、技術およびツールを使用することができる。
- 創造的实践、企業や雇用され得る能力、さらなる研究への準備、研究および自己啓発という文脈において、効果的な方法で知識、理解、特性、スキルを明確にし、合成し、生成することができる。
- アート&デザイン科目における知的財産（IP）の役割と影響についての理解を示すことができる。
- アートとデザイン分野およびその分野を超えたさまざまな文脈や状況での学びを適用、統合、拡張することができる。

4.5 閾値、典型、卓越の各基準はセクション 5 に記載されている。これらは、学生が彼らの学習を通して修得した汎用

的および分野特性スキルに関する記述を含んでいる。

## 5 教授、学習、アセスメント

5.1 アート&デザインの提供は、学生が利用できる専門分野の多様性（セクション 3 を参照）によって特徴づけられ、その提供にあたっては、適切な物理的資源に基づいた教授、学習、アセスメントに関する幅広いアプローチを採用している。英国および海外のクリエイティブ産業との間の十分に確立された関係性に基づき、専門性の開発が強調され、社会的、環境的、文化的小および専門的な意識によって実践的な研究が支えられている。プログラムは、研究、学術活動、職員の専門的実践によって、直接情報付けられるとともに、そのプログラムの通用性が維持される。創造的实践者は、業界の専門家とともに、非常勤の訪問教師として重要な役割を果たし、幅広いキャリアの機会と知識やスキルの移転可能性に関する学生の理解を拡大する。学生は正課外での科目を定期的実践しており、そのような時にはさまざまなスタッフからの支援が必要となる。技術者、実演者、図書館／学習リソース・スタッフのこの文脈における貢献は非常に重要である。

5.2 アート&デザイン分野の学習環境は、バーチャルを含むオンライン配信をサポートするため、内部（機関）と外部（ロケ地）の両方の物理空間を含むさまざまな形をとっている。ほとんどの専門分野では、物理的な学習環境は、アート&デザインに関する教授法にとって本質的なものである。教授と学習に関する包括的なアプローチは、適切な空間、高品質のインフラストラクチャーと資源へのアクセスを前提としている。これは、一般的には、専門的な実践の文脈を反映し、学生がソリューションを生成するために反復的に作業することを可能にするデジタル技術を統合したスタジオおよびワークショップスペースの形態をとる。伝統的なプロセスや制作をサポートする機器にアクセスするだけでなく、現代のかつ革新的なソリューションを生み出すために、業界で採用されている技術にアクセスする必要もある。

5.3 アート&デザインのプログラムは、独創的な実践者としての個々の開発と、独立した学習スキルの漸進的な修得を

支援するように設計されている。プログラムの一貫性は、モジュールまたはユニットによって達成され、各レベルにおける特定の学習成果の進展を明確に表現している。一般に、コアとなる要素、選択的学習、そして、前提条件があり、それらは学術的指導によって支援される。いくつかのプログラムには、プレースメント、インターンシップまたは仕事に基づく経験を行う機会が含まれている。

5.4 すべてのプログラムは、専門分野固有の知識、スキル、理解を深める機会を提供する。実践ベースのプログラムでは、これに、技術的、デジタル的スキルと理解の修得が含まれる。科目の学習には、創造的実践者として活動する文脈上の理論的知識や理解が加わる。例えば、創造的実践者の養成に不可欠な、歴史的、文化的、環境的、およびプロフェッショナルな要素がある。これらの要素は、プロジェクトの統合部分として、または、個別の学習単位として提供される。

5.5 さらに、プログラムは、成功した創造的実践者に不可欠と見なされる一連の一般的なスキルの養成を奨励するように設計されている。これらのスキルには、自己啓発、危険負担、独自の調査、効果的なコミュニケーション、交渉、対人関係、管理、プレゼンテーション、組織、自己管理、重要なエンゲージメント、チームワーク、社会、コミュニケーション、およびリサーチに関するスキルが含まれ、これらは排他的なものではない。これらのスキルは、段階的に、そして、モジュールやユニットの統合された部分として養成される。

5.6 アート&デザイン教育の教授法に関するアプローチは、学生が複雑な問題を特定し解決するためのすべての学習を導くことができるように、本質的に統合的で包括的なものである。一次的な伝達方法は、さまざまな長さのプロジェクトや課題を通して行われる。一般に、これらは、初めは教師主導であり、学習が進展し、独立した学習の持続期間を必要とするにつれて、学生主導になっていく。学生は、プログラムの後半の段階における作業の重要な部分として、彼らの創造的な作業の内容と方向性に対する増加する責任を負う。この教授法に関するアプローチのために、アート&デザインのプログラムは、しばしば大きなモジュールまたは学習単位を通

じたカリキュラムとして提供される。

5.7 スタジオベースの活動は、アート&デザイン教育の重要な特徴であり、個人とグループの両方の授業を行う。効果的な学習環境において、スタッフと学生は、学習の過程でパートナーとして、実践のコミュニティーを創出する。教授法としては、学生のプレゼンテーション、ピアグループの学習、ワークショップ、グループ批評に重点を置いている。個人やグループの指導は、学生にとって支援的な環境を提供し、内省的な学習を促す重要なアプローチである。デジタルプラットフォームや仮想的学習環境は、この創造的なコミュニティーを開発し、カリキュラムを提供する手段として一般的に採用されている。さらに、講義、セミナー、実演、プレゼンテーションを通じて提供されるものもある。

5.8 アート&デザインのプログラムにとって、同僚に対して、または、公有地において作品を示すことは、特徴的な教育実践といえる。これには、デジタルプラットフォームの使用、グループピア批評、暫定展示、卒業制作展、ファッションショー、映画上映など、さまざまな形がある。学生は、より多くの聴衆に自分の作品を紹介したり、公開／ピアレビューに関与するなど、専門的な環境で自分の実践を積むことができる。

5.9 商業的および職業的実践に関する知識と理解は、さまざまな形で発展している。外部で設定された「ライブ」プロジェクト、プレースメントやインターンシップは、多くのプログラムの共通する特徴である。さらに、多くのプログラムは、パートナーシップや第3セクターの関与を促し、現代の状況や問題に対する学生の意識を高める役割を果たしている。

5.10 国際的な文脈についての学生の幅広い理解は、国際文化的、経済的、環境的な観点を取り入れたプログラムを通じて養成される。これは、研究訪問、交換留学生、学生の職業紹介を通じて伝統的に導入されており、また、国際的なパートナーシップ、スタッフ交流、および留学生の数の増大によっても補われている。

5.11 学生の独立した学習スキルの養成は、個々に協議された学習協定を通じて形式化された自律的および自発的学習によって促進される。このような個人的および職業的養成は、一般に、内省的日誌、ブログおよび自己啓発記録を含むさまざまな形式で示されている。

5.12 形成的かつ総括的な評価は積極的な学習ツールとみなされる。フィードバックとフィードフォワードは、学生の学習の中核であり、将来の発展に関する明確な指針を学生に提供する。アート&デザインは、教師を通じて学生に包括的な口頭フィードバックを提供するという強い伝統を持っているが、フィードバックは書面と口頭の両方の形式で提供される。そして、ますます、オンライン、オーディオ、およびビデオの方法の使用が増加している。

5.13 アセスメント戦略は、学習プロセスに対する学生の理解を支援し、学習への深甚なアプローチを促進するように設計されている。その戦略は、また、全体的な学習プロセスの中で自律学習と自己評価を重要な要素として推進する。自己評価とピア評価は、形成的評価の重要な部分を構成し、時には正式な総括的な評価プロセスの重要な部分を構成する。評価基準は、アート&デザインのほとんどの分野に共通する思惟的探求に対応し、プロジェクトの全体的な成果に対する個人およびグループの貢献度を公正かつ正確に評価するものである。

5.14 アート&デザインのプログラムは、極めて包括的である。ある研究は、失読症がアート&デザインの学生の間広がっており、ほとんどの高等教育機関は、十分に確立されたサポートシステムを持っていることを示している。機関レベルおよび専門分野レベルでの支援システムは、学生のニーズを特定し、学問的および精神的な問題に対する手助けや助言を提供する。

## 6 参照基準

6.1 このセクションには、閾値、典型、卓越基準が含まれている。それらは、高等教育の提供者が多様で革新的なプロ

グラムを開発し続けることを可能にする参照指標と規定した学習成果として明確に示されている。

### 優等学位に対する閾値基準

6.2 閾値基準は、アート&デザインの優等学士号を取得した卒業生が最低限必要とする基準を示したものである。その基準は、個々のプログラムが専門分野の性質や高等教育機関の使命や文脈に従って設置されるよう正当に望み、強調と解釈のバリエーションの範囲を提供するために、意図的に幅広く表現されている。

6.3 閾値基準では、アート&デザインの優等学位について、その取得者が技術的知識と実践的スキルを修得したことを確認する。その学位取得者は、専門分野の学習に関連する素材、メディア、技法、方法、技術、ツールを使用することができ、業務慣例に極めて精通していることとなる。

### 専門分野特有の知識、理解、特性、スキル

6.4 卒業生は、以下を行うことができる：

- i 独立して、かつ／または自主的活動として、および／または設定された状況内容に応じて、アイデアを創出する能力を示す証拠を提示することができる。
- ii 観察、調査、探求、視覚化および／または制作における習熟度を実証することができる。
- iii 素材、プロセス、環境を選択して使用する能力に裏付けられた成果に至るアイデアを創出することができる。
- iv 意図、プロセス、成果、および文脈と普及方法との間を結びつけることができる。

6.5 卒業生の作品は、専門分野における専門的実践の側面によって特徴付けられる。これは、以下のいくつかの知識と理解によって証明される。

- i 学生の専門分野の広範な批判的および文脈的な次元。
- ii 聴衆、顧客、市場、環境、ユーザー、消費者、および／

- または参加者と創造的実践者との関係から生じる問題.
- iii 学生の専門分野における現代および新興メディアや技術の主要な発展.
  - iv 学生の専門分野におけるその他の実践者の作品の重要性.
  - v 知的財産の役割と影響.

## 汎用的な卒業生のスキル

6.6 卒業生は、以下のいくつかの能力を持っていることを実証する.

自己管理：

- i 仕事量の管理と期限遵守における自己管理スキルの発揮.
- ii 変化や不確実性に対する対応.

批判的関与：

- i 情報と経験を分析し、合理的な議論を展開する.
- ii 他者の批判的判断からの恩恵を受け、自分の強みとニーズを認識する.

グループ/チームの作業と社会的スキル：

- i 他者との対話において、対人関係、社会的、および交渉のスキルを適用する.

コミュニケーションとプレゼンテーションのスキル：

- i ビジュアル、口頭、書面によるアイデアや情報の伝達.
- ii 自分のアイデアを提示し、聴衆に働きかける.

研究と情報スキル：

- i さまざまなソースからの情報の発見、検索、および管理.
- ii コミュニケーションおよび情報技術の選択と採用.

- iii 知的財産権の問題を特定し、その他の知的財産権に関する侵害を防止し、革新と商業化のプロセスを守るための適切な措置を講じる能力.

## 優等学位の典型基準

6.7 アート&デザインの卒業生は、ビジュアルやマテリアルの形態を使ったコミュニケーションと表現のスキルを持ち、ビジュアル言語を用いてアイデアや情報を調査、分析、解釈、開発、表現することができる。学生の作品のうち少なくともいくつかは、その学生の専門分野の最前線のアイデアや実践によって特徴付けられる。

## 専門分野特有の知識、理解、特性、スキル

6.8 典型的な達成度として、卒業生は作品の中で次のことを実証することができる：

- i アイディア、コンセプト、提案、解決策または議論を、自主的活動として、かつ/または設定された状況内容に応じて、独立のおよび/または協働的に生成することができる.
- ii 観察、調査、思惟的探求、視覚化および/または制作のプロセスにおいて、集中的思考と発散的思考の両方を採用することができる.
- iii 素材、プロセス、技術、環境を選択し、試行し、適切に使用することができ、品質基準の理解を示し、細部に留意することができる.
- iv 例えば、イメージ、人工物、環境、製品、システム、プロセス、テキストなどの成果に至る開発アイデアの判断と自己批評を示すことができる.
- v 意図、プロセス、成果、および文脈と普及方法との間の相互作用を管理し、適切に利用することができる.
- vi 機略に富み、倫理的であり、企業家的である.

6.9 卒業生の理解には、彼らの専門分野における研究、実践、理論によって特徴付けられ、以下のような内容を含む：

- i 特に学生の専門分野ならびに一般的なアート&デザイン分野における批判的、文脈的、歴史的、概念的、経済的、社会環境的および倫理的な次元.
- ii 専門的環境下での聴衆、顧客、市場、環境、ユーザー、消費者、参加者、同僚、および協働クリエイターと創造的実践者との間の関係性
- iii 現代および新興メディアや技術の主要な発展によって引き起こされた彼らの専門分野に対する可能性と含意、ならびに、アート&デザインにおける現代的な実践に関する分野間および学際的アプローチに対する可能性と含意.
- iv アート&デザイン分野の実践における知的財産権の役割と影響に関する知識と理解.

## 卒業生の汎用的スキル

6.10 卒業生の汎用的なスキルは、幅広い文脈で応用されている。アート&デザイン分野の優等学位を有する者は、次の能力を実証することができる：

自己管理：

- i 独立して学習し、目標を設定し、仕事量を管理し、期限を遵守することができる。
- ii 変化を予期し、変化に対応することができ、そして、曖昧で、不確実で、不慣れな状況の中でも働くことができる。

批判的関与：

- i 情報と経験を分析し、独立した判断を行うことができる。
- ii 内省を通じて合理的な議論を明確に展開することができる。
- iii 質問し、検証し、評価することができる。
- iv 自分の作品の発展や向上に対して、他人の意見を取り入れることができる。
- v 個人の強みとニーズを特定し、自己啓発に反映することができる。

グループ/チームの作業と社会的スキル：

- i 例えば、共同作業、共同的試行、および交渉などを通じて、他者と効果的に交流することができる。
- ii ビジュアル、口頭、書面での形態で、アイデアや情報を包括的に表現することができる。
- iii さまざまな状況で、アイデアを提示・交換し、聴衆に働きかけることができる。

研究と情報スキル：

- i 関係する資料を入手し、研究し、関連する知見を取り入れ、明確化することができる。
- ii さまざまなソースからの情報を発見し、選択し、検索し、評価し、操作し、管理することができる。
- iii コミュニケーションおよび情報技術を選択し使用することができる。
- iv 革新性、創造性、進取の気性：アイデアを創出、開発、伝達する能力、知的財産権を管理し活用する能力、支援を得て功を奏する成果を実現させる能力。

個人的な資質：

- i 彼らの専門分野およびその分野内での彼らの立場を探求し、それを進めるモチベーションを持つことができる。
- ii 彼らの作品に倫理的原則と個人的価値を適用することができる。

## 優等学位の卓越基準

6.11 卓越基準に到達したアート&デザイン分野の卒業生は、セクション6に挙げた能力とスキルをより高いレベルで実証する。その卒業生は、広範かつ独立的な実践、創造性、革新性、および深い理解に関する証拠を示す。卓越した作品は、独特かつ想像力豊かな方法で、科目とその応用に関する包括的な知識を表す。

## 付録1：プログラムタイトルのリスト

これは、限定的なリストではない。

<b>A :</b>	アニメーション(Animation)
応用美術(Applied Arts)	広告およびブランディング (Advertising and Branding)
芸術(Art)	芸術およびデザイン (Art and Design)
アーティストデザイナー：製作者(Artist Designer : Maker)	
<b>C :</b>	陶芸(Ceramics)
コミュニケーションデザイン (Communication Design)	コンピューターアート (Computer Arts)
コンピューターゲームアート (Computer Games Art)	コンピューターゲームデザイン (Computer Games Design)
コンセプトアート(Concept Art)	現代芸術実践 (Contemporary Arts Practice)
コスチュームデザイン (Costume Design)	創造的芸術(Creative Arts)
創造的実践(Creative Practice)	
<b>D :</b>	装飾美術(Decorative Arts)
デザイン(Design)	デザイン工芸(Design Crafts)
劇場、パフォーマンス、イベントのデザイン(Design for Theatre, Performance and Events)	デザイン製品(Design Product)
デジタルアート(Digital Arts)	デジタルデザイン (Digital Design)
デジタルフィルム(Digital Film)	デジタルメディアアート (Digital Media Arts)
製図(Drawing)	
<b>F :</b>	美術品(Fine Art)
ファッションアクセサリデザイン(Fashion Accessory Design)	ファッションコミュニケーション (Fashion Communication)
ファッションデザイン (Fashion Design)	ファッションおよび織物デザイン (Fashion and Textiles Design)
ファッションマネジメント (Fashion Management)	ファッションマーケティング (Fashion Marketing)

ファッション様式と製造 (Fashion Styling and Production)	フィルム製造(Film Production)
フィルムとテレビ (Film and Television)	履物デザイン(Footwear Design)
家具デザイン(Furniture Design)	
<b>G :</b>	ゲームアート(Games Art)
ゲームデザイン(Games Design)	ガラスおよび陶芸 (Glass and Ceramics)
グラフィックアート (Graphic Arts)	グラフィックコミュニケーション (Graphic Communication)
グラフィックデザイン (Graphic Design)	
<b>I :</b>	イラストレーション(Illustration)
産業デザイン(Industrial Design)	相互作用デザイン (Interaction Design)
対話型マルチメディア (Interactive Multimedia)	インテリアデザイン (Interior Design)
インテリアと空間デザイン (Interior and Spatial Design)	
<b>J :</b>	宝石および金属デザイン (Jewellery and Metal Design)
<b>L :</b>	
照明デザイン(Lighting Design)	
<b>M :</b>	モデルデザイン(Model Design)
モーショングラフィックデザイン (Motion Graphics Design)	
<b>P :</b>	絵画と製図 (Painting and Drawing)
パフォーマンス(Performance)	フォトジャーナリズムおよびドキュメンタリー写真 (Photojournalism & Documentary Photography)
写真(Photography)	写真およびビデオアート (Photography and Video Art)
製品デザイン(Product Design)	小道具制作(Props Making)
<b>S :</b>	
舞台芸術(Scenic Arts)	彫刻(Sculpture)



銀細工および宝石デザイン (Silversmithing and Jewellery Design)	サウンドデザイン (Sound Design)
空間デザイン(Spatial Design)	テレビ, 映画, 劇場用の特殊効果メイクアップデザイン (Special Effects Makeup Design for TV, Film and Theatre)
<b>T :</b>	
織物工芸(Textile Art)	織物および表面デザイン (Textiles and Surface Design)
織物デザイン(Textile Design)	ファッション繊維 (Textiles for Fashion)
シアターデザイン (Theatre Design)	三次元デザイン (Three-Dimensional Design)
三次元デザイナーメーカー (Three-Dimensional Designer Maker)	時間ベースのアートおよびデジタルフィルム (Time Based Art and Digital Film)
<b>V :</b>	
ビジュアルアート(Visual Arts)	ビジュアルコミュニケーション (Visual Communication)
<b>W :</b>	
ウェブデザイン(Web Design)	

## 付録 2 : アート&デザインの分野別参照基準のベンチマーキングおよびレビューグループのメンバー

### アート&デザインの分野別参照基準 (2016) のレビューグループメンバー

David Baldry	サフォーク大学(University Campus Suffolk)
Rachel Dickson	アルスター大学(University of Ulster)
Professor Linda Drew(Chair)	レイブンズボーン(Ravensbourne)
Dr Hamish Gane	ウェールズ・トリニティ・セント・デイビッド大学 (University of Wales, Trinity Saint David)
Professor Judy Glasman	ハートフォードシャー大学, CHEAD 副議長 (University of Hertfordshire, Vice Chair CHEAD)
Professor Chris Owen	アングリア・ラスキン大学 (Anglia Ruskin University)
Professor Sally Wade	シェフィールド・ハラム大学, GLAD 議長 (Sheffield Hallam University, Chair GLAD)

### 雇用者代表

David Worthington	ホームズ&マーチャント社 (Holmes & Marchant)
-------------------	-------------------------------------

### 学生リーダー

Clara Teixeira	ノッティンガム・トレント大学 (Nottingham Trent University)
Hancock	

### QAA オフィサー

Dan Murch	高等教育質保証機構 (Quality Assurance Agency for Higher Education)
-----------	---

### アート&デザインの分野別参照基準 (2008) のレビューグループメンバー

以下に提供される詳細は、2008 年のアート&デザインの分

野別参照基準に掲載された。

Carolyn Bew アート, デザイン, メディア高等教育アカデミー専門センター  
(The Higher Education Academy Subject Centre for Art, Design and Media)

Dr Cheryl Buckley ノーザンプリア大学およびデザイン歴史学会 (Northumbria University and the Design History Society)

Professor David Buss UCA 芸術大学(University College for the Creative Arts at Epsom, Farnham, Rochester, Canterbury and Maidstone)

David Butler ニューカッスル大学ーライフ, ワーク, アート (イングランド高等教育財政カウ  
ンシル FDTL4 によって資金提供された  
プロジェクト) (Newcastle University and  
the Life, Work, Art (project funded by the  
Higher Education Funding Council for  
England Fund for the Development of  
Teaching and Learning Phase 4 (FDTL4)))

Dr Linda Drew チェルシー・カレッジ・オブ・アート&  
デザイン  
(Chelsea College of Art and Design)

Professor Judy Glasman ハートフォードシャー大学ーアート&デ  
ザイン: パートタイムチューターの能力  
強化 (FDTL4) (University of Hertfordshire  
and the Art & Design : Empowering  
Part-time Tutors (FDTL4))

Professor Gordon Kennedy(Chair) ノッティンガム・トレント大学  
(Nottingham Trent University)

Dr Gerard Moran デモントフォート大学  
(De Montfort University)

Christoph Raatz アート&デザイン高等教育協議会  
(Council for Higher Education in Art and  
Design)

Brenda Sparkes ノッティンガム・トレント大学および  
ファッション・織物課程協会  
(Nottingham Trent University and the

Association Of Fashion and Textile Courses)  
Andrew Stone ロンドン・メトロポリタン大学およびイ  
ンテリア教育者 (London Metropolitan  
University and the Interiors Educators)

Professor Evelyn Welch クイーン・メアリー (ロンドン大学) お  
よび美術史家協会  
(Queen Mary, University of London and the  
Association of Art Historians)

Professor John Wood ゴールドスミス・カレッジ (ロンドン大  
学) ーアート&デザインの目的に合うラ  
イティング (FDTL4) (Goldsmiths College,  
University of London and The Writing  
Purposefully in Art & Design (FDTL4))

## アート&デザインのオリジナルベンチマーキング グループメンバー (2002)

以下に提供される詳細は, 2002 年のアート&デザインのオ  
リジナル分野別参照基準に掲載された。

Ms Glenda Brindle セントラル・ランカシャー大学  
(University of Central Lancashire)

Professor David Buss (Chair) ケント・インスティテュート・オブ・ア  
ート&デザイン  
(Kent Institute of Art and Design)

Mr Tim Coward ウェールズ・インスティテュート, カーディ  
フ大学(University of Wales Institute, Cardiff)

Mr Allan Davies アート&デザイン学習教育センター, ロン  
ドン・インスティテュート, ロイヤル・カ  
レッジ・オブ・アート&ウィンブルドン・  
スクール・オブ・アート  
(Centre for Learning and Teaching in Art and  
Design, London Institute, Royal College of Art  
and Wimbledon School of Art)

Mr Anthony Dean セントラル・スクール・オブ・スピーチ&  
ドラマ (ロンドン) (The Central School of  
Speech and Drama, London)

Ms Linda Drew アート・デザイン・コミュニケーション学

習教育支援ネットワーク, ブライトン大学  
(Learning and Teaching Support Network for  
Art, Design and Communication, University of  
Brighton)

Mr David Henderson      ロバート・ゴードン大学  
(The Robert Gordon University)

Professor Jamie  
Hobson                      サウサンプトン・インスティテュート  
(Southampton Institute)

Ms Jill Journeaux        コヴェントリー大学(Coventry University)

Professor Terence  
Kavanagh                 ラフバラー大学(Loughborough University)

Ms Joyce Palmer         ロンドンギルドホール大学  
(London Guildhall University)

Ms Sue Tuckett          ノリッチ・スクール・オブ・アート&デザ  
イン(Norwich School of Art and Design)

## 「奥付」

QAA1216 - 2017年2月

© 高等教育質保証機関 2017

サウスゲートハウス, サウスゲートストリート,  
グロスター GL1 1UB  
登録慈善団体番号 1062746 および SC037786

電話番号: 01452 557050

Web: www.qaa.ac.uk

以上

## 5. おわりに

以上が邦文仮訳の内容であるが、英国の分野別参照基準の内容をわが国の分野別質保証の枠組み作りを行う上で参考にすることにあって、日英の学士課程教育の構造上の違いを踏まえる必要があると筆者は考える。そのため、本稿のおわりにと、先行研究に基づき、その違いについて、以下3点を指摘しておきたい。

第一に、大学の学士課程に関して、英国は専ら専門教育を行う教育課程として開設されている一方、日本は専門教育と

教養教育とが柔軟に複合した教育課程として開設されているという点である(日本学術会議, 2010, 75頁)。英国の学士課程は専門教育に焦点を置いているため、分野別の到達目標が比較的作りやすい一方で、日本の学士課程は教養教育と専門基礎の場とし、高度な専門教育については修士課程・博士課程に移行する向きがあることから、日本で英国のような学士課程の分野別参照基準を設けることは容易な作業ではなく、また、修士課程や博士課程との関係を考慮しないと、英国のような明確な基準は作成しにくい(河合塾, 2008, 33頁)という日英の違いを押さえておくことが重要である。こうした基本構造がそもそも英国と異なることから、日本においては、修士・博士課程との関係を考慮しつつ、専門教育のみならず教養教育にも配慮した分野別参照基準を設定する必要があり、また、英国よりも日本の学士課程教育のこうした多様性をより一層許容した分野別参照基準の枠組みとすることが必要になるのではないかと筆者は考える。

第二に、英国の大学は、財政面での国の責任が強固であるという点で、ほぼ一律に公的な性格を有している一方、日本の大学は、国公立の設置形態があり、独自の建学の理念に基づいた私立の大学が多数設置されているという点である。建学の精神に端を発する私立大学においては、教育内容の自主性・自律性の尊重ということとともに、公的な資金への依存度が少ないという点からも、日本において、画一的な分野別質保証の枠組みを導入することは適切でない(日本学術会議, 2010, 75頁)。

第三に、英国では、学士の学位に「普通学位」(ordinary または pass degrees)と「優等学位」(honors degrees)の2種類が設けられており、その観点から分野別参照基準も設定されているが、日本の学位にはそうした種類がないという点である。また、英国の優等学位には、前述のとおり、成績によってレベル分けがなされており、その指標が必要になると考えられることから、各専門分野の閾値・典型・卓越基準という3つのベンチマーク基準を設定しているが、日本の学位にはそうしたレベル分けがないという違いもある。従って、上記の英国のような観点から、日本で分野別参照基準を設定する必要はないのではないかと筆者は考える。

以上のような違いがあることから、英国の先進事例にわが国が学ぶべき点は多々あるものの、英国の枠組みをそのまま

直接わが国に取り入れることは難しいということを確認しておく必要がある。こうした点に留意して、今後は、芸術学およびデザイン学の分野別参照基準をわが国においても策定していく必要があると筆者は考える。

## 6. 残された課題

最後に、これまで本稿で述べてきた内容を踏まえ、今後わが国において、芸術学およびデザイン学の分野別質保証の取組みを推進していく上で、筆者が重要と考える残された課題を以下3点指摘しておきたい。

第一に、前述のとおり、日本の学士課程では概ね教養教育と専門基礎の修得が前提とされており、専門をどの程度重視するかという点で、日本の学士課程の分野別参照基準の構築は難しいという課題がある。そうした事情があるため、今後、わが国で芸術学およびデザイン学の分野別参照基準を策定するにあたっては、専門的側面のほかに、教養的側面も加味しながら基準を設定する必要があると筆者は考える。その際に、参考になると考えられるのが、全米のアート&デザイン分野の専門分野別ア krediteーションを担う団体である National Association of Schools of Art and Design (NASAD) の評価基準である(注12)。NASADは、専門的側面のほかに、教養的側面も考慮に入れた評価基準を示しているところに特色を持つことから(注13)、その内容も参考にしながら、今後は、芸術学およびデザイン学の分野別参照基準をわが国で策定していく必要があると筆者は考える。

第二に、将来的に芸術学およびデザイン学の分野別参照基準が策定された際に、各大学で実際にはどのような活用が図られるのかという課題がある。英国では、前述のとおり、評価機関である QAA が主導して分野別参照基準を策定した上で、ソフト・ローとしてその基準が機能し、機関評価の際にも同基準を活用している一方で、日本では、分野別参照基準の策定を主導する主体は評価機関ではなく、機関別認証評価の際にも同基準を特に活用していない。このため、今後わが国の各大学で実際にその基準の活用が図られるためには、何らかの手立てが必要になるだろう。現状として、日本学術会議がすでに策定した分野別参照基準をどのように活用するかは、各大学の判断と裁量に委ねられている。また、実際には、日本学術会議による分野別参照基準はかなりの分野のもの

のが作られてきたが、まだ各大学で十分活用されていないのは確かである(広田,2016,43 頁)。こうした課題に対して、今後よりその基準が活用されていくためには何が必要かを考察し提案を行った論考は多くあるが(例えば、大学教員の視点から提案を行ったものとして、広田(2016)がある)、筆者は、英国で行われているように、わが国での機関別認証評価の際にも分野別参照基準を直接活用する(例えば、「評価の視点」の中に、同基準の活用の有無を入れて認証評価を行うなど)ところまでには至らないまでも、策定された分野別参照基準を日本の認証評価機関が各大学に対して活用することを促すなどの仕掛けが必要になるのではないかと考える。より具体的には、当該分野の参照基準を策定する団体と日本の認証評価機関とが連携して、例えば、「専門分野ごとに行われる教育プログラムの評価は、欧米においても『プログラムレビュー』として内部質保証システムに内包させている。日本の当該大学がプログラムレビューを実施するにあたっては、日本学術会議が作成した『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準』や学協会が作成するコア・カリキュラム等を活用していくことも考慮されてよい(工藤,2016,51~52 頁)」といった内容の指針や共同声明などを各大学に対して提示して発信するなど、各大学に対して外からの押し付けるような強制的な手法ではなく、内発的な活用を促すような奨励的な手法で、その基準の活用を推奨するという方策が有効なその仕掛けの一つになるのではないかと筆者は考える。その際には、当然ながら、認証評価機関が行う機関別認証評価と当該団体が示す分野別参照基準との関係性を明確にした上で、大学教育の分野別質保証・向上のために、両者を今後どのように融合させるべきかを考える必要があるだろう。いずれにせよ、優れた分野別参照基準が提示されたとしても、それを各大学が活用しないのではまったく意味がない。そうした活用を促す戦略も今後重要になるといえよう。

第三に、冒頭で述べたとおり、今後わが国では専門分野別評価の活発化が求められるが、既存の認証評価機関がすべての専門分野を担うためには、その活動を支える人材の確保や財政基盤の確立が不可欠であり、これらすべてを整備するのは決して容易なことではないという課題がある。そのため、芸術学およびデザイン学については、その分野の質保証の必

要性を認めた学協会（例えば、コンテンツ教育学会など）が中心となって、今後新たに当該分野の評価基準・体制・プロセス等を検討・策定した上で、将来的には、その専門分野別評価をそうした学協会が担当することもあり得るのではないかと筆者は考える。その際の資料としても、本稿で報告した基準が活用できるのではないかと筆者は考える。

## 注

- 1) 日本学術会議の以下のウェブサイトには、2017年4月時点で、すでに、経営学から物理学・天文学分野に至るまで、25の学問分野の参照基準が策定・公表されている。  
<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/daigakuhosyo/daigakuhosyo.html>（参照日 2017/4/23）
- 2) 以下の記述は、特に断りのない限り、QAAの以下ウェブサイト「QAA Subject Benchmark Statements」をもとに記載している。  
<http://www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code/subject-benchmark-statements>（参照日 2017/4/23）
- 3) QAAの用語集は、このサイトから入手可能である：  
<http://www.qaa.ac.uk/about-us/glossary>
- 4) クォリティーコードは、  
<http://www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code>から入手でき、また、欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドラインに準拠している。その基準とガイドラインは、  
[http://www.enqa.eu/wp-content/uploads/2015/05/ESG\\_endorsed-with-changed-foreword.pdf](http://www.enqa.eu/wp-content/uploads/2015/05/ESG_endorsed-with-changed-foreword.pdf)から入手できる。
- 5) 「パート A：学術水準の設定と維持」は、  
<http://www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code/quality-code-part-a>から入手できる。
- 6) 個々の章は、以下のサイトで入手できる。  
<http://www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code/quality-code-part-b>
- 7) さらに「パート A：学術水準の設定と維持」は、以下のサイトから入手できる。  
<http://www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code/quality-code-part-a>
- 8) さらに「英国高等教育のための質規範：一般的イントロダクション」は、以下のサイトから入手できる。  
<http://www.qaa.ac.uk/publications/information-and-guidance/publicat>

ion?PubID=181#.WOfbpPmLSUk

- 9) この学士号は、イングランド、ウェールズ、北アイルランドの高等教育資格枠組みのレベル 6、スコットランドの高等教育機関資格枠組みのレベル 10 に相当する。英国学位授与機関の高等教育資格枠組みは、  
[www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code/qualifications](http://www.qaa.ac.uk/assuring-standards-and-quality/the-quality-code/qualifications) に掲載されている。
- 10) 分野別参照基準の承認スキームは、次のサイトから入手できる。  
<http://www.qaa.ac.uk/publications/information-and-guidance/publication?PubID=190>
- 11) JACS についての情報は、次のサイトから入手できる。  
[www.hesa.ac.uk/content/view/1776/649](http://www.hesa.ac.uk/content/view/1776/649).
- 12) NASAD の評価基準は、次のサイトから入手できる。  
<https://nasad.arts-accredit.org/accreditation/standards-guidelines/handbook/>（参照日 2017/5/22）
- 13) NASAD の評価基準の特色については、高橋（2011）を参照。

## 参考文献

- ・大森不二雄（2015）、「第7章 学習成果に基づく英国の大学の質保証システム—教学マネジメントの視点から」、深堀聰子編『アウトカムに基づく大学教育の質保証 チューニングとアセスメントにみる世界の動向』所収、東信堂
- ・河合塾（2008）、「教育改革 ing（第16回 学士課程教育の構築に向けて）」、『Guideline 7・8月号』30～39頁
- ・工藤潤（2016）、「大学基準協会は専門分野別評価といかに向き合うべきか」、大学基準協会『大学評価研究第15号』47～53頁
- ・大学評価・学位授与機構（2015）、『大学教育における分野別質保証の在り方に関する調査研究報告書』、  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/project/\\_icsFiles/afieldfile/2015/08/03/no09\\_nr15-2-0803.pdf](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/_icsFiles/afieldfile/2015/08/03/no09_nr15-2-0803.pdf)（参照日 2017/4/23）
- ・高橋光輝（2011）、「第5章 コンテンツ教育の質保証」、『コンテンツ教育の誕生と未来』株式会社ポーンデジタル
- ・日本学術会議（2010）、『回答 大学教育の分野別質保証の在り方について 平成22年（2010年）7月22日』、  
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-k100-1.pdf>（参照日 2017/4/23）
- ・日本高等教育評価機構（2007）、「海外におけるファッション系高等教育機関に係る評価機関並びに被評価機関（大学院等）のアク

レディテーションの実態に関する調査研究」, 『認証評価に関する調査研究』所収,

[http://www.jihe.or.jp/publication/pdf/research\\_report/h18\\_monka\\_jigyoku.pdf](http://www.jihe.or.jp/publication/pdf/research_report/h18_monka_jigyoku.pdf) (参照日 2017/4/28)

- ・ 広島大学高等教育研究開発センター編 (2007), 『学位に関するベンチマーク・ステートメントー英国・高等教育水準審査機関 (QAA) の学科目別報告ー』同センター
- ・ 広田照幸 (2016), 「第一線大学教員はなぜ改革を拒むのかー分野別参照基準の効用について考えるー」, 大学基準協会『大学評価研究第 15 号』37~46 頁
- ・ 依田達郎 (2015), 「第 II 部 米英仏における分野別質保証制度とその実施状況に関する基礎情報」, 大学評価・学位授与機構『大学教育における分野別質保証の在り方に関する調査研究報告書』所収